

「医療機関における電波の安全管理に関するワークショップ」を開催

東海総合通信局(局長 北林 大昌)は、令和5年2月11日(土)、「東海地域の医療機関における電波利用連絡推進協議会(会長 酒井 順哉:名城大学大学院都市情報学研究科教授)」との共催により、「医療機関における電波の安全管理に関するワークショップ」をオンライン開催しました。

「みんなで考えよう～電波利用のヒヤリハット～」をテーマとして、パネルディスカッションとグループワークが行われ、東海4県の病院に勤務している臨床工学技士、医療情報システムの管理担当者を中心に85名が参加しました。

冒頭、電波監理部長 深津徹より「電波は日常生活に必要不可欠な存在となっており、医療機関においても、電波利用に関する課題解決のための情報提供、電波管理の必要性や電波利用に対する周知啓発を通じて、安全な電波利用の推進を目指して参りたい」と挨拶しました。

パネルディスカッションでは、星槎大学 村木氏から医用テレメータの不具合、三重大学 松月氏から携帯電話の通信障害、福井大学 山下氏からランサムウェアに代表されるサイバー攻撃、藤田学園 疋田氏から来院者に無線LANを提供する際の課題などを紹介しました。

続いて、講師の皆様をパネラー、当協議会の神戸副会長((一社)愛知県臨床工学技士会理事長)をモデレーターとして、参加者からいただいた医療現場におけるヒヤリハットの事例等について議論を交わしました。各パネラーからは、それぞれの立場からの率直なコメントがあり、医療の電波利用に関する問題点解決に向けて意識すべきヒントが得られました。

パネルディスカッション終了後、参加者は4つのグループに分かれ、グループワークを実施しました。各グループには、パネリストと当協議会の構成員も参加し、各医療機関における電波利用や電波管理についての課題・疑問・悩み等を持ち寄り、その対応策等について意見交換をしました。グループ発表では、各グループでの議論の結果を発表し、最後に神戸副会長が講評を行いました。

参加者からは、「勉強することによって今後勤務先の病院の安全性を上げていくことができると感じた」、「一線で働く方の意見を共有することができ、ディスカッションもできる場は貴重なので大変満足した」、「少人数の形式のグループワークとなり、密度の濃い議論が出来て有意義だった」などの意見が寄せられました。また、オンラインで開催したことにより、パネルディスカッションからグループワークへの移行等を円滑に行うことができ、大変好評をいただきました。今後も医療関係者等を対象に、電波を利用する医療機器を安心・安全に利用する重要性への理解を深めていただくための支援をお届けするよう工夫して参ります。

お問合せ先：電波利用環境課 052-971-9107



(一社)愛知県臨床工学技士会
神戸 幸司氏 (協議会副会長)



三重大学医学部附属病院
松月 正樹氏



藤田学園 疋田 潤哉氏



パネルディスカッションの様子



名城大学 酒井 順哉氏
(協議会会長)



星槎大学 村木 能也氏



福井大学医学部附属病院
山下 芳範氏



東海総合通信局
電波監理部長 深津 徹